

10月号

第120号

発行日　：２０２６年　９月２８日
発　行　：**虹技株式会社**
安全環境管理部 環境管理G
姫路市大津区勘兵衛町４丁目１
☎　０７９―２３６－３２５７

すごい事になってしまいました。　９月１４日にゆめさきの森公園を襲った豪雨が、なんと公園へのアクセス道や公園内の散策道、小川の法面等をあちこちぶっ壊しました。　開園以来最大規模の自然災害被害のようです。　タイトルバックはその公園に向かう弥勒寺線の土砂崩れの様子です。　これが自然の猛威です。　我々に優しく癒しを与えてくれる自然は時として荒ぶる姿も見せつけます。　侮ってはいけません。



そんな中でも、自然の生き物達は本当にたくましい。　こちらは久しぶりの登場、ナミルリモンハナバチ（ブルービー）の演舞です。　このように姿はとても美しいですが、とんでもない生態のハナバチなのです。　と言うのも、巣作りを全くせず、他のハナバチの巣に卵を産み付けて子育てもせず、完全に育児放棄です。　産み付けられた別のハナバチが、それと知らずにせっせと世話をして育て上げる。　労働寄生って呼ぶのだそうです。　人間なら許しがたいネグレクトですが、森全体で子育てをしていると捉えたら、豊かな里山があってこそと言えるかも知れません。「幸せを呼ぶ青いハチ」という別名もあながち間違いではないのかも。　でも、逆に前号で紹介したおしゃれなマダム風のハナバチがせっせとよその子を世話して育ててる状況は、我々人間なら納得いかない気分になります。



洪水被害の後にぴょこんと出現したのが、この何とも芸術的なシロオニタケです。　キノコって突拍子もないところにニョキっと現れたりしますが、こちらも見た目はキュートでも毒キノコの一種ですから、決して食べてはだめです。　まぁ、どう見ても食べたいと思うような形ではありませんがね。　でもマツタケなどと同様に地面から生える特徴の菌根菌の仲間で、腐った木からは生えるシイタケなどとは違います。　菌根菌とは、樹木の根に菌を巡らせ、樹木の養分とやり取りをしてＷｉｎ-Ｗｉｎの関係を保ち生育する菌類の事です。　これもまた、豊かな森であるあかしと言えますね。



こちらは、その名前とはうらはらに温厚な性格のキムネクマバチです。　大きな羽音で人にまとわり付いたりするのでビビらされますが、実はおとなしくて、しかもオスは針を持っていないのです。　花粉を集めては食料にし、受粉を助ける重要な送粉昆虫です。　見た目によらず良い奴なんですよ。

環境爺（じじい）のつぶやきコラム



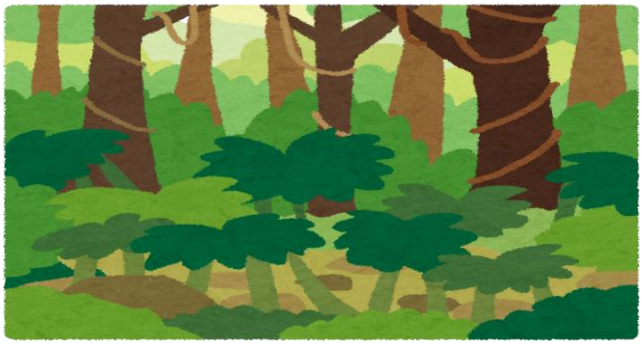
実はわし、夏の終わりに、富士山に行ってきたのじゃ。　山好きのわしは、富士山にはまったく興味が無かった（山好きを自称する者はたいがい富士山を敬遠する傾向）のじゃがそうは言っても日本一の山じゃからの、少しは気になっておった。　行ってみて初めて分かった。　当り前じゃが、富士山はデカい！　それに高い！　想像以上だったわい。　他の山とは比にもならんと実感したぞ。　ただ、噂通りの殺風景な景色と外国人観光客の多さにはちょっと参ったの。　９合目の小屋に一泊したが、あちらこちらで高山病の影響か一晩中嘔吐する声が響き渡り、眠ってなんておられんかったのは辛かった。　早朝に登頂してご来光を楽しむつもりだったが、深夜からの風雨が激しくなり断念じゃ。　ま、９合目まで登ったので良しとしよう。



さて、今回は各地でまきおこっておる水害とその発生メカニズムについて説明しよう。　まず、空から降る雨はどこから来たのか知っておるかの。　雨に出身地が書いてあるわけではないので、絶対とは言えんが、日本に降る雨の大半は、赤道直下の熱帯地方の海や陸地から蒸発して空に昇った水蒸気が再び水に戻って落ちているのじゃ。　その移動距離は数千キロにも及ぶ。　これが大気の川と呼ばれる現象じゃ。

以前、アマゾンについてここで書いたことがあったろ。　アマゾンの重要性は酸素の供給源としてではなく、大量の水蒸気発生で大気の川を作って大河の如く世界各地に降雨と言う水の供給を実現しておると説明したが、覚えてくれておるかの。

そう、遥かかなたアマゾンで水蒸気となった水は、数万キロの旅を経て日本に降らせておるかもしれんという訳じゃ。　これは、重要なポイントじゃぞ。　生物はみな人間も含め、水なしでは生命活動を維持できん。　水の存在こそ生物が暮らす地球環境の基本中の基本である。　従って水について知識を持っておくのに損はない。

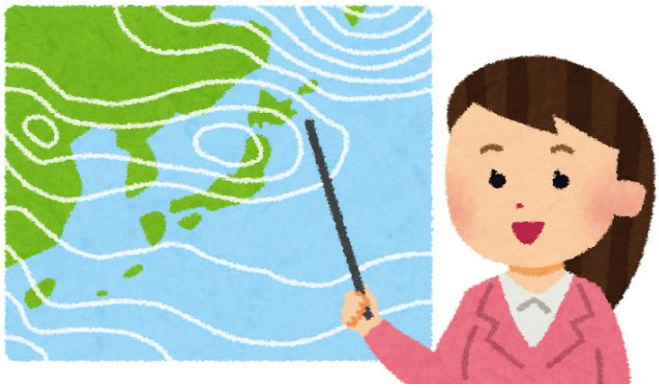


水を浄化する処理方法は、これまた以前に説明したじゃろう。　我々は人為的にろ過する方法をあれこれと工夫してきたが、自然には元々水の浄化装置が備わっておる。　地下深くに伏流として流れる間にろ過されて湧き出る水は清流の元だし、それよりももっと壮大なろ過装置は、蒸発と復水のサイクルじゃ。　気温の高い赤道付近の海や陸地から蒸発する膨大な水蒸気は海水さえも真水に変える地球最大のろ過装置ともいえるじゃろう。　ろ過された水が空の大河となり、何千キロも流れて膨大な量の雨となって大地を潤す。　この壮大な水循環システムが地球の営みそのものなのじゃ。



大気の川から降り注ぐ雨が、人間にとってちょうど良いように降ってくれれば良いが、そんな都合いい訳もなく、そこは自然のなせる業。　人間様の思うようになるはずがない。　よく聞く言葉に「エルニーニョ現象」と言うのがあるじゃろう。　天気予報では「今年はエルニーニョ現象の影響で暑くな

る」てなことを説明しとるので、なんだか環境に悪影響を及ぼす悪者みたいに思ってはおらんか。　エルニーニョ現象とは、太平洋の東側に発生する西向き貿易風が弱くなることで、海水面が温かくなって上昇気流と雨雲発生が太平洋の東端に移動すると、地球規模の大気循環が変化するのじゃ。　水の蒸発量が増加する訳ではないぞ。　赤道直下の熱帯地方では、常に水は蒸発して大気を流れており、その流れる方向が大きく変わるのがエルニーニョという訳じゃ。



　反対に、ラニーニャというのは、太平洋の東で温められた海水面が、強い貿易風によって西側に流れて行ってしまい、結果として東側は海底の冷たい海水が出て来て西側の海面が温かくなる現象じゃ。
つまり、この現象も水蒸気の量を左右するのではなく、上空に上がった水蒸気で構成する大気の川の流れる方向を左右するという訳じゃ。　エルニーニョは日本にとって冷夏や暖冬になりやすいとか、ラニーニャは猛暑・厳冬になる傾向があるとはいうが、必ずそうとも断言できん。　エルニーニョとラニーニャは空の大河の流れを変える現象で、何千キロも離れた海水温の変化で遠く離れた日本にも影響を及ぼしておるんじゃ。



　地球のはるか上空には非常に強い西風が吹いておる。　地球が東方向に自転しておるから、置いてかれた空気が西風となるのじゃ。　時速２～３００ｋｍものジェット気流と呼ばれる現象じゃ。　このジェット気流の動向も大気の川の流れに大きく影響する。　ジェット気流と大気温度の変化は互いに影響し合い、互いの動向に変化をもたらすのじゃ。　そこへ、線状降雨帯という降雨現象が話をややこしくするが、ジェット気流や大気の川が水蒸気を赤道から運んでくる仕組みだとすると、線状降雨帯は、運ばれてきた水蒸気が積乱雲となって次々と同じ場所に並び豪雨を降らす現象じゃ。　なぜ、次々と同じ場所に積乱雲が発生するかというのは、地形・気圧・前線の配置によって決まるため、一概に一つの原因とは決めつけられない現象なのじゃよ。　ただ、地球温暖化によって蒸発する水、つまり大気の川に流れ込む水量が増えているのではないかと考える識者もおるようじゃ。　それなら何となく降雨量の増加は説明できるような気はするがの。



　いずれにしても、海は海、大気は大気、日本の天気は日本だけの問題と思っておるまいな。　赤道の海水面温度が少し変わっただけで、ジェット気流が動き、大気の川の流れが変わり、何千キロも離れた地の天候を激変させる。　まさにバタフライエフェクト、複雑に絡み合っておるんじゃよ。



　なんにせよ、豪雨の際には外出を控え、車も出さず、家の２階や高い位置に避難する垂直避難を心掛けること。　車でアンダーパスに突っ込むなんてもっての外じゃ。　流れる水の中では水深５０センチで立っておれず、車は３０センチの水深でドアが開かなくなる。　ゆめゆめ、自然の力を甘く見んこっちゃ。

ぶつぶつ

虹の森なう

８月は活動が無かったので久しぶりの虹の森です。
デッキが完成したので、そのデッキから斜面を横断するトラバース道の整備をメインに行いました。
以前に付けた道はその後あまり手を入れていなかったので、もう一度きちんと歩けるように整備のやり直しです。　この道が整備されると、虹の森をクルッと一周できる遊歩道となり、いろんな方向から虹の森の観察が楽しめるのです。



具体的には、斜面を水平になべて道を作り、崩れないよう土留めの木を打ち込む作業は、ちびっ子たちにはちょっと退屈だったみたいで、スコップの大きさにも腰が引けています。　ウッドデッキは細かく補修を行い、より完成度が高まって来ました。
これで一般ハイカーも楽しめるはず。



ちょっと、つまらなかったちびっ子たちもウッドデッキにぶら下げたブランコで上機嫌となりました。　こんなふうに、子供たちの笑顔が見れる森になれば嬉しいなぁ。

１０月はゆめさきの森まつりがあるので、活動はお休みです。　水害で園内はあちこち崩れちゃってますが、森まつりの日までには復旧させる意気込みで、公園職員さんたちも張り切っておられます。
虹技も一番奥でまた模擬店を開きますので、ぜひとも子供たちを連れていらしてください。　お待ちしております。

ツリークライミング体験

９月１３日に久しぶりのツリークライミング体験を開催いたしました。　入念な準備体操の後、インストラクターのお兄さんの指導を受けて多くのちびっ子たちが、ツリークライムにチャレンジ。



うまくコツをつかんで、スムーズに登っていく子もいれば、難しくて苦戦する子、また苦戦しながらもあきらめずに頑張り続ける子など色々でしたが、「ガンバレー」と応援する方も力が入り、感動させられました。　最後はみんな力尽きるほど全力で楽しんでくれたようで、いい思い出になったかな。



